

一茶生誕250年プレ・イベント

# 一茶の足跡ウォーキング



15歳で江戸に出て俳諧師となった小林一茶は、50歳で柏原に戻り、一茶社中を興して北信地域の俳句の指導者として活躍しました。

2012年6月15日は一茶の249回目の誕生日です。この日、一茶とゆかりの深い高山村、小布施、須坂の一茶の足跡をたどる小さな旅をしませんか。

参加費用は、入館料、昼食代の実費2000円のみです。

■日 時 2012年6月15日（金） 9:00~3:30

## ■コース

（高山村）一茶館集合／見学→途中まで徒歩→（小布施町）岩松院／一茶句碑／見学→

9:00 9:50 11:50 12:20

（須坂市）田中本家／昼食／一茶真筆／館内見学→（須坂市）蓮生寺／一茶→

12:30 2:00 2:10 2:50

（高山村）高山中学校・一茶句碑→一茶館

3:00 3:10 3:30

■参加費 2000円 入館料、昼食代を含みます。

## ■注意事項等

- ・歩きやすい靴と服装で、帽子と雨具を持参して下さい。
- ・全行程マイクロバスが随行します。疲れたらバスにお乗り下さい。

■申し込みは、6月8日（金）までに一茶館（026-248-1389）をお願いします。先着22名様。



一茶ゆかりの里 一茶館

382-0825 長野県上高井郡高山村大字高井5161

TEL026-248-1389 FAX026-248-8913

## 一茶の足跡ウォーキング 見学地一覧



### 曹洞宗 梅洞山岩松院

1472年(文明4年)雁田城主荻野備後守常倫が開基した古刹。葛飾北斎の最大の作品である八方睨み鳳凰の天井絵、福島正則の霊廟がある。

文化13年(1816)4月20日、一茶が岩松院を訪れ、蛙合戦を見て詠んだ句がある。

蛙たゝかひ見にまかる四月廿日也けり

瘦蛙まけるな一茶是に有 『七番日記』(文化13年3月)



### 豪商の館 田中本家博物館

江戸中期・享保18年(1733)初代新八を祖とする田中本家は、北信濃屈指の豪商。当時の面影を伝える屋敷構えは、約100m四方を20の土蔵が取り囲む豪壮なもの。

一茶が田中家に泊まり、翌朝に詠んだ句が残されている。

田中氏にやどりけるを、朝起き起きのいさぎよさを  
涼しさや縁からすぐに川手水

涼しさや縁の際なる川手水 『文政句帖』(文政6年7月)



### 真言宗 豊山派 蓮生寺

境内にある秋葉宮は、宝暦6年(1756)に再建。

1810年(文化7年)小林一茶、夏目成美、大島完来の選による俳額が奉納されている。



### 高山中学校の一茶句碑

秋風や磁石にあてる故郷山

文政2年(1819年)9月、一茶57歳の句。

『おらが春』では「高井野の高みに上りて」の前書きがつけられており、高山村荒井原の山ノ神あたりでの作と推定される。

昭和52年度卒業生一同建立。田中政義書。



### 歴史公園信州高山 一茶ゆかりの里 一茶館

一茶は、47歳の時この地の豪農であった久保田春耕を訪れた。春耕から父久保田兔園の離れ屋を逗留先として提供され、以後65歳で亡くなるまでこの地を頻繁に訪れた

1996年(平成8年)建設されたこの施設は、一茶が駐留した久保田家の離れ屋が移築復元され、収蔵、公開されている一茶の真筆は、「父の終焉日記」、「浅黄空」「俳諧寺抄録」など約50点で収蔵数日本一を誇る。